

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の流動化・集積化の推進事業については、法令どおりの業務であり、特に課題はない。 ・集落営農法人組織の高齢化が進み今後の組織の在り方の検討、経理等を行う人材の確保が必要。 ・機械導入等の支援策の情報提供。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の流動化・集積化の推進事業は、申請に対して、遅滞なく事務処理を行う。また、現在契約中の農地貸借についても農地中間管理機構を介した貸借につないでいく。 ・集落営農法人が町内には現在6組織（令和元年度末）あるため、法人間の連携を進め、人材不足の解消や省力化、低コスト農業を進めていくために広域的な組織の編成を進める。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>B</p>
-------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1102
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	02.豊かな営農環境の保全及び農業関連施設の近代化
施策の方針	<p>営農条件の向上を目指した基盤整備や土づくりを進めるとともに、豊かな農業生産の環境づくりとしての田園・里山景観の保全・育成を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上のための農業基盤の強化を進める 		

担当部署	主管課	農地課
	関係課1	農業振興課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【土地改良整備事業（国・県）】 農業生産基盤の整備を進める。県営氷川下流地区かんがい排水事業（氷川大堰改修）、県営竜北地区湛水防除事業 ・【和鹿島地区海岸保全事業】 台風・津波・高潮・波浪等による災害、海岸浸食に対して人命や農用地を守り、国土の保全を図るため、県営事業の実施に係る地元との連絡調整を行う。当事業は、県営事業実施に対しての負担を行い、平成30年度で事業完了した。 ・【土地改良施設維持管理事業】 農業生産基盤となる土地改良施設（用排水機場、農道、用排水路）の機能の保持と耐用年数を確保するため、定期的整備補修等による適正な維持管理を行う。若洲排水機場主ポンプ（1号）・非常用発電装置分解整備（適正化40期生） ・【団体営農業農村整備事業】 農業効率向上のため、区画狭小、排水不良、農業用水の不足など、生産基盤上の課題についてきめ細かく対応する。事業内容により定率又は定額の国庫補助あり。新田・鹿島、野津地区整備事業 ・【農道水路維持管理事業】 用排水路及び農道の修繕等の維持補修について、必要性和緊急性を加味しながら随時計画を策定し実施する。 ・【耕作放棄地対策業務】 農地法第30条の規定による利用状況調査の結果、現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地等については所有者等に対して通知を行い、解消若しくは農地中間管理機構等への貸し付けを促す。担い手による放棄地解消。 ・攻めの園芸生産対策事業により、梨の強化棚やイチゴハウスの自動換気施設の導入を行い農業基盤の強化を図った。 ・産地パワーアップ事業により、ブロッコリー生産において低コスト耐候性ハウスの育苗施設を整備し、ブロッコリーの安定的な生産を図った。 ・農業用ハウス強靱化緊急対策事業により、ハウスの補強やさび止めを行うことで、ハウスの強靱化、長寿命化を図った。
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	土地改良整備事業(国・県)	88,492	農地課	県営氷川下流地区かんがい排水事業(氷川大堰改修)整備率(%)、県営竜北地区湛水防除事業整備率(%)	8.8、 20.8	63.5、 26.2	68.0、 33.1				100、 100	A
2	和鹿島地区海岸保全事業	0	農地課	海岸保全整備率(%)	99.6	100	—				100	A
3	土地改良施設維持管理事業	1,782	農地課	若洲排水機場主ポンプ(1号)・非常用発電装置分解整備(適正化40期生)率(%)	53.9	69.3	93.4				100	A
4	団体営農業農村整備事業	48,016	農地課	新田・鹿島・野津地区(事業費ベース)※計画はR1年度まで(%)	6.8	65.6	100				100	A
5	農道水路等維持事業	3,015	農地課	適正な維持管理	実施	実施	実施				実施	A
6	耕作放棄地対策業務	0	農地課	耕作放棄地面積(m ²)	1,036,835	1,086,037	1,112,338				500,000	C
7	土壌改良指導事業・環境保全型農業(土づくり、廃プラ、持続的農業)事業	0	農業振興課	エコファーマー加入人数(人)	291	317	269				400	C
8	農業施設・農業環境の整備	51,670	農業振興課	事業実施主体等の数(件)	8	9	8				3	A
9												

【今後の方針】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・農業基盤整備事業については、概ね順調に事業が進んでいる。 ・耕作放棄地については、後継者不足の問題もあるなどなかなか解消が進まない。特に中山間地は年々増加傾向にある。 ・農業用機械や農業用施設を整備をする補助事業については、事業の採択基準が高くなってきており、採択基準をクリアすることが厳しくなっている。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・農業基盤整備事業は引き続き事業を実施していく。 ・耕作放棄地については、解消困難な農地で、かつ農用地区域外農地の非農地判断を行うことと併せて、解消に対する有利な補助事業をPRするなど改善に努めていく。 ・農業用機械や農業用施設を整備をする補助事業については、各種事業の情報を得て利用できる事業を検討、準備をする。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	A
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1103
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	03.農業経営の安定化の推進
施策の方針	<p>農業経営面での強化・安定化を図るための支援を総合的に進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営安定化のための支援を進める ・経営安定化のための指導及び研修機会を充実させる ・生産組織の育成 		

担当部署	主管課	農業振興課
	関係課1	
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・経営所得安定対策事業では、平成30年度から米の直接払い交付金が廃止され、令和2年度からはWCS（稲発酵粗飼料）用稲が専用品種で取り組むことを座談会などを開催し情報共有や制度周知を図った。 ・農業収入安定化事業では、農業共済組合が行う共済事業の内、施設園芸、果樹、家畜共済に対し各農家の共済掛金の支援を行った。 ・農産物の販売強化については、前年に作成したパンフレットを活用し、農産物のPRを行った。また、八代地域農産物PR事業を活用し、農産物フェア（JA主催）におけるポスター等でPRを行った。 ・研修については、農業者自ら営農上の課題を掘り起こし、調査・研究することも目的にしているが、研修会、会議を通じての仲間づくりや情報交換の場となった。 ・JAの生産部会等への組織育成費・担い手育成費の助成を行っており、生産部会の活動推進に寄与している。
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	経営所得安定対策事業	3,520	農業振興課	申請率(申請戸数/該当戸数)(%)	89	87	86				90	B
2	高生産性農業育成事業(農業収入安定化事業、くまもと土地利用型農業競争力強化支援事業)	21,894	農業振興課	農業共済加入率(%)果樹、園芸	69.5、 96.6	61.4、 95.7	61.7 92.0				74.5、 99.0 (H30)	C
3	農産物の販売強化	0	農業振興課	PR等パンフレット作成回数(回)	0	1	0				1	B
4	いぐさ・畳表生産体制強化支援対策事業	2,940	農業振興課	い業機械導入の推進	実施	実施	実施				実施	A

5	有害被害対策事業(有害鳥獣被害防除柵等設置事業、有害鳥獣緊急捕獲活動支援事業、鳥獣被害対策協議会運営事務)	4,269	農業振興課	鳥獣被害金額(千円)	23,378	22,375	22,820				13,517	C
6	経営研修機会の拡充	0	農業振興課	研修会への参加及び先進地視察研修の実施回数(回)	3	3	3				4	A
7	経営改善・後継者育成	145	農業振興課	経営改善・後継者育成セミナー開催数(回)	0	0	2				1	A
8	生産組織団体育成事業	0	農業振興課	組織育成費補助金交付団体数(団体)	13	13	13				13	A
9												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策事業については、主食用米の作付面積の減少が見られる。 農家の収入減少を補償する制度として収入保険制度が令和元年度から始まり、農業共済からの移行が一部で進んでいる。 研修については、移住就農者や、新規就農者等が参加しやすいよう情報提供する仕組みが必要。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策事業については、氷川町に合った産地交付金の活用方法を検討していく。 農家の自然災害に備える制度である、農業共済と農業収入保険の関連を見極め効果的な事業を検討していく。 研修については、参加者が少ないので魅力的な研修を企画するとともに、プッシュ型の研修会も検討していく。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1104
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	04.農地を守り農業を支える人材の育成
施策の方針	農地を守り農業を支える人材の育成を図るとともに、住民参加による農地保全活動を推進します。 ・新規就農者の育成・確保を進める ・住民参加による農地や農村環境の保全や農作業支援の仕組みづくり		

担当部署	主管課	農業振興課
	関係課1	農地課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・就農相談並びに新規就農者への相談は随時行っており、補助事業等の周知は町ホームページ、メール等で行っている。また町内の青年農業者クラブの活動支援を行っている。 ・農業農村の持つ多面的機能（国土の保全、自然環境保全、良好な景観形成）の維持・発揮を図るための地域の共同活動を支援する。多面的機能支払交付金事業には、以下のものがある。 <ul style="list-style-type: none"> ○農地維持支払・・・水路の泥上げ・農道の草刈り等 ○資源向上支払（共同活動）・・・植栽・水質保全等の農村環境活動 ○資源向上支払（長寿命化）・・・水路、農道等の補修や更新
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	農業後継者育成事業、新規就農者支援、家族経営協定事務(新規就農者、担い手育成対策事業)	0	農業振興課	フォローアップ研修開催回数(回)	2	3	2				3	B
2	農業次世代人材投資事業	25,520	農業振興課	農業次世代人材投資事業(経営開始型)の新規採択者数(経営体)	2	3	1				5	B
3	青年農業者クラブ育成支援事業	40	農業振興課	支援団体数(団体)	2	2	1				2	B
4	女性活動グループ育成事業	108	農業振興課	支援団体数(団体)	1	1	1				1	A

5	農家の働き方改革	0	農業振興課	農業経営改善計画の再認定率 (再認定申請件数/再認定対象 件数)(%)	91	83	78.4				80	B
6	観光農園・農業体験・漁業体験の推 進	0	農業振興課	ツーリズム参加人数(人)	1,834	2,497	2,122				2,070	A
7	多面的機能支払交付金事業	113,391	農地課	取組面積(ha)	753	1,201	1,382				1,411	A
8												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規就農者、担い手育成対策事業】新規就農者の経営安定に繋がる支援が必要。 ・【多面的機能支払交付金事業】事業に取り組むための保全隊を組織する地区も増加しているなど、地区独自での基盤整備に取り組む意識向上が見られる。未結成の地区もあるため、事業のPRなどを行い更なる拡大が必要である。事業費もある程度確保できているので、積極的な活用が望まれる。
今後の 施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【新規就農者、担い手育成対策事業】新規就農者へのサポート活動の実施。 ・【多面的機能支払交付金事業】町内で結成が必要な地区に前向きに検討してもらい、ほぼ町内全域で組織を結成してもらうなど積極的な事業活用に努める。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合 評価	B
----------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1105
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	05.住民参加による地産地消及び都市部や国内外での販路拡大の推進
施策の方針	地域ぐるみで地産地消を進めるとともに、国内の都市部や海外への積極的な販路拡大の取り組みを推進します。 ・地産地消の推進 ・販路拡大の取り組みを進める ・物産館や物産展を活用した流通システムの確立・販路拡大を進める		

担当部署	主管課	農業振興課
	関係課1	地域振興課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 【地産地消の推進】直売所での地域農産物の取り扱いは落ち込んでいる。 【販売戦略等助成事業】商工観光振興協議会を通じて、商工業者などの活性化及び販売戦略や観光の推進につながる活動を支援している。 【販路拡大事業】農産物のPRとして、販売フェアを開催している。氷川町の農産物に対する評価は高く販売額も伸びている。
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	地産地消の推進	0	農業振興課	域内農産物の割合(%)	90	75	56				90	C
2	農特産物販売促進対策事業	924	農業振興課	販売促進回数(回)	3	3	2				3	B
3	商工観光振興協議会(販売戦略等助成事業)	147	地域振興課	販売戦略等助成金事業(件)	0	1	1				3	B
4	各種メディアを活用したPR事業	0	農業振興課	SNS・HPへの記事掲載件数(件)	3	3	3				5	B
5	物産展の開催によるPR・交流促進	1,181	地域振興課	物産展の開催(出店)参加回数(回)	1	1	0				3	C
6	販路拡大事業(特産品販売フェア、農産物PR事業)	924	農業振興課	販売フェアにおける販売実績(千円)	1,800	3,792	2,549				2,300	A
7	アグリビジネスセンター活用活性化事業	0	農業振興課	アグリビジネスセンターの利用件数(件)	4	1	1				5	C

8												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【今後の方針】

【評価指標】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【販売戦略等助成事業】協議会内において助成制度を設けているが、活用を希望する団体等が少ない。 ・【物産展の開催によるP R・交流促進】町又は町観光物産協会単独での物産展の開催は現状では難しいため、商工会、農産物関係との連携が必要。 ・【販路拡大事業】道の駅竜北の認知度は高いが、氷川町の認知度は低いいため、販売フェア等で町のP Rが必要。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【販売戦略等助成事業】販売戦略等の助成については、広報誌や商工会、観光協会等を通して各種団体等に周知方法を検討する。 ・【物産展の開催によるP R・交流促進】物産展の開催（出展）については、観光物産協会や出展者と協議、連携を図り、出展箇所の確保及び出展者の同意取り付けを行い、出店の参加機会の拡大を図る。 ・【販路拡大事業】販売フェアで町のP Rと併せて、事業が継続できるよう販売者のメリットも確保する。

A:目標に向かって順調に進んでいる
 B:目標に向かってある程度進んでいる
 C:目標に向かってあまり進んでいない
 D:目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標:数値目標
 総合評価の目標:施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>B</p>
-------------	----------

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産資源を回復・増大していくためには継続した放流事業等が必要。 ・浅海化や自然災害により漁業活動に支障をきたしている。
<p>今後の 施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を実施しながら効果を検証し、水産資源の回復、増加に繋がる事業の検討が必要。 ・浅海化している場所や船の係留場所について、漁協と検討することが必要。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合 評価</p>	<p>B</p>
------------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1201
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	01.地域に密着して暮らしを支える商工業活動の推進
施策の方針	個店の魅力向上のための研修機会の充実とサービス機能強化の取り組みを進めます。 ・ 商業サービスを高めるための支援を充実する ・ 商業地の活性化の推進 ・ 地域に密着する企業の誘致		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【商工会育成事業・中小企業振興事業】 商工会の各種事業及び街路灯管理委員会への補助を行い、商工業者への支援を実施している。 ・ 【商工業者経営安定化支援】 商工業者の運転資金などへの融資に対する利子の補給を実施している。 ・ 【人材の確保・育成】 商工会において補助事業を活用し、若手後継者を対象に専門家を招いてのセミナーの実施や個別相談指導を行い、経営力向上の支援を実施している。 ・ 【創業支援】 空き店舗を活用した事業所の新規創業、現店舗等のリフォームや機械器具の購入による事業拡大を町補助により支援している。 ・ 【企業誘致活動】 誘致の対象となる町有の土地は確保できていないが、電話での問い合わせに対し、町の優遇制度を紹介している。
--------------	---

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	中小企業振興事業	11,743	地域振興課	氷川町プレミアム付き商品券使用率(%)	99.78	99.67	99.76				100	A
2	商工会活動育成事業	714	地域振興課	補助金の縮減(千円)	970	1,143	714				950	B
3	商工業経営安定化支援事業	1,722	地域振興課	助成件数(件)	77	67	87				0	B
4	人材の確保・育成	700	地域振興課	育成セミナーの受講者数(人)	46	67	53				60	B
5	起業に対する支援	2,572	地域振興課	創業支援事業活用件数(件)	0	1	2				5	A
6	空き店舗を活用した店舗展開事業	2,099	地域振興課	補助事業実施件数(件数)	11	3	6				25	A
7	企業誘致活動	100	地域振興課	企業誘致件数(件)	0	0	0				2	B

8												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【商工会活動育成】竜北街路灯管理委員会と宮原街路防犯灯管理委員会との間で統合に向けて検討。タバコ小売組合は令和元年5月で解散。 ・【創業支援】空き店舗を活用した新規創業や店舗展開は、活用したいと思う商工業者に対する所有者の理解が必要である。 ・【企業誘致活動】スマートインターチェンジ付近への問い合わせはあるものの、町有地がないため空き地などの活用を検討する必要がある。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【商工会活動育成】街路灯管理委員会については、令和2年度において統合され、商工会の事業となった。また、町の補助金の活用により、若手後継者の育成による経営力向上等を支援するとともに、プレミアム付商品券販売への補助等により商工業者の活性化を図る。 ・【創業支援】空き地空き店舗を活用した新規創業が2件あり、また店舗リフォームや機械器具の購入により事業拡充が図られるため、引き続き商工会と連携して支援を行っていく。 ・【企業誘致活動】現在スマートインターチェンジ隣接している民有地への企業進出が確定しているため、進出予定企業と県と連携をとりながら県及び町の補助事業などで支援していく。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p>
-------------	--

【今後の方針】

<p>施策の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【異業種交流・研修・研究活動支援事業】農業者・商工業者等の異業種活動の機運を高めることができず、支援体制が出来ていない。 ・【テーマ型まちづくり活動支援補助金制度】行政区活動活性化交付金申請、実績報告時にテーマ型補助金制度の説明を行った。テーマ型地区づくり補助金制度は設けたものの、具体的な活用事例が乏しいため、周知説明が難しい。多くの地区やグループが、テーマ型まちづくりに取り組まれるように、住民のアイデア創出の助言、周知啓発が必要である。
<p>今後の施策展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・【異業種交流・研修・研究活動支援事業】ツーリズムクラブと農商工業者を巻き込み、連携と支援体制の確立を図り、交流・研修・研究活動を支援していく。 ・【テーマ型まちづくり活動支援補助金制度】多くの地域へテーマ型地区づくり補助金の活用を促すため、周知啓発に努める。

【評価指標】

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合評価</p>	<p>C</p>
-------------	----------

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1301
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	01.ツーリズム推進のための企画・運営体制と拠点施設の充実
施策の方針	町内の多様な魅力を活用したツーリズム事業推進のための目標づくりと体制の強化、拠点機能の充実を進めます。 ・氷川町のツーリズムの基本方針を確立する ・ツーリズム拠点環境の充実		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	農業振興課
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム事業の推進】 ツーリズムのあり方の検討、民間主導への移行などの発展的な方向性及び具体的な取り組みを示す。農業体験イベントの開催を支援しているが、春先の事業がコロナ感染拡大防止により実施出来なかった。 ・【ツーリズム推進体制の強化と人材養成の推進】 若手農業者1名が入会した。ひかわツーリズムクラブの組織強化とコーディネーター機能の強化を図る。既存団体・組織を通じてツーリズムの担い手となる人材の発掘と新プログラム創出のための必要なノウハウを学ぶための機会を創り、インストラクターとなる人材を育成する。 ・【観光事業を推進する団体の組織再編】 令和元年度は、再編に向け氷川町観光物産協会、物産振興協議会と共同で協議を4回実施したが、明確な方向性を示すまでに至っていない。 ・【道の駅周辺環境整備事業】 ツーリズム拠点環境の充実を図るため、道の駅周辺農地の活用方法を検討。 ・【エコツーリズム環境の充実】 立神峡公園は里山の自然や昔ながらの生活を体験できる公園として、町内小学生の体験学習や町外者の利用に活用されている。また、立神峡公園は、指定管理者による適切な施設管理・環境保全に努めている。
--------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	ツーリズム事業の推進	960	地域振興課	交流人口の増加(参加者数) (人)	800	870	630				1,200	C

2	ツーリズム推進体制の強化と人材養成の推進	0	地域振興課	会員数の増加(人)	26	25	26				50	B
3	観光事業を推進する団体の組織再編	0	地域振興課	組織再編	未実施	未実施	未実施				実施	B
4	「道の駅」周辺環境整備事業	0	農業振興課	道の駅周辺農地を活用した整備	未実施	未実施	未実施				整備完了	C
5	エコツーリズム環境(立神峡公園)の充実	0	地域振興課	連携事業数(件)	0	未実施	未実施				2件以上	D
6												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム事業の推進】参加者のニーズはあるが、既会員の高齢化及び新規会員の獲得数が少なく事業拡大が難しい状況にある。会員の生業とツーリズム事業が双方にメリットとなるような仕組みが必要である。 ・【ツーリズム推進体制の強化と人材養成の推進】ひかわツーリズムクラブとの連携無しには事業遂行は難しいため、クラブ会員の増加、若年化が課題である。会員の生業とツーリズム事業が双方にメリットとなるような仕組みが必要である。 ・【観光事業を推進する団体の組織再編】それぞれに活動を行い、成り立ちも異なる団体の再編について、行政が主体となって関わっていくのは難しい。再編は各団体で検討し進めるべきである。 ・【道の駅周辺環境整備事業】活用方法の検討と併せて、用地と財源確保が課題となる。 ・【エコツーリズム環境(立神峡公園)の充実】立神峡公園指定管理者で体験学習などエコツーリズムを積極的に実施しているが、連携事業には至っていない状況である。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【ツーリズム事業の推進】クラブ員の獲得、若返りと農泊や移住を見据えた長期の農業体験などのプログラムや施設の充実化を図る。将来的には民間主導に移行する。 ・【ツーリズム推進体制の強化と人材養成の推進】会員数の増加を図るため、会員の生業とツーリズム事業がwin-winになるような仕組みを考え、新規会員を獲得したい。 ・【観光事業を推進する団体の組織再編】地域振興課で事務局を行っている氷川町観光物産協会の意見を統一し、各関係団体との協議の機会を調整する。 ・【道の駅周辺環境整備事業】類似施設等の活用事例等の情報収集や、財源確保の方策等を検討していく。 ・【エコツーリズム環境(立神峡公園)の充実】立神峡公園の取り組みを継続していくとともに、J Rウォークをはじめとした他団体事業との連携を充実させ、エコツーリズム環境の拡大に努める。

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	C
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1302
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	02.ツーリズム展開にむけた魅力的なプログラム開発及び環境整備の推進
施策の方針	町内の多様な魅力を活かすツーリズムの担い手と資源環境の充実を進めます。 ・ ツーリズム推進のため環境整備やプログラムの充実を図る		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	生涯学習課
	関係課2	農業振興課
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【古墳歴史学校の開催】 歴史・古墳ツーリズムの中心プログラムとして、歴史や古墳を学ぶ体験学習や歴史の学習を行い、体験学習やワークショップなどができる拠点を設け、学校教育や生涯学習などに利用していく予定である。 ・ 【歴史・古墳ツーリズム、散策ルート of 環境整備事業】 町内の文化財の活用を図るため、各文化財の環境整備を実施する。野津古墳群、大野窟古墳、大王山古墳群などの指定文化財の環境整備、散策ルートの整備及び案内・解説サインを整備する。また、指定以外の町内遺跡や文化財を正確に把握し、散策ルートを計画していく。計画段階から道路整備や休憩所、トイレ、駐車場、案内サイン、解説サインなどの施設も計画する。 ・ 【ブルーツーリズムの推進】 ブルーツーリズムの基礎となるアサリ等の水産資源の回復、増大を目的に平成30年度覆砂事業を実施した。漁協と資源の調査を実施している。 ・ 【氷川ツーリズム事業】 交流人口を増やし、町の魅力の広くPRを図るため、体験型のツーリズム事業を実施したが、年度末の事業はコロナの影響により中止した。 ・ 【やつしろツーリズム事業】 未実施
--------------	--

【事業名称、指

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	古墳歴史学校の開催	0	生涯学習課	リーダーの数(人)	0	0	0				10	C
2	歴史・古墳ツーリズム、散策ルートの環境整備事業	2,088	生涯学習課	草刈等の実施カ所(カ所)	17	10	17				20	B
3	ブルーツーリズムの推進	0	農業振興課	プログラムの作成	未作成	未作成	未作成				作成	C
4	氷川ツーリズム事業	0	地域振興課	町外参加者数(人)	550	600	670				800	B

5	やつしろツーリズム事業	0	地域振興課	連携事業の実施数(回)	0	未実施	未実施				2	D
6												

【今後の方針】

【評価指標】

施策の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・【古墳歴史学校の開催】歴史・古墳ツーリズムの中心プログラムとして、歴史や古墳を学ぶ体験学習や歴史の学習の講師の育成が必要である。 ・【歴史・古墳ツーリズム、散策ルート環境整備事業】散策ルート等の環境整備（定期的な草刈り）を実施していく必要がある。 ・【ブルーツーリズムの推進】平成30年度に覆砂事業を実施したので、今後もアサリ等の水産資源の生育状況を確認していく。 ・【氷川ツーリズム事業】ひかわツーリズムクラブとの連携無しには事業遂行は難しいと思われる。また、クラブ会員の増加、若年化を図り新規の体験型事業の創出など事業の再構築が必要である。 ・【やつしろツーリズム事業】八代市、芦北町との協議は行っていない。定住自立圏での協議が必要である。
今後の施策展開	<ul style="list-style-type: none"> ・【古墳歴史学校の開催】歴史・古墳ツーリズムの中心プログラムとして、歴史や古墳を学ぶ体験学習や歴史の学習の講師の育成が必要である。 ・【歴史・古墳ツーリズム、散策ルート環境整備事業】文化財保護委員等の協力を受け、指定以外の町内遺跡や文化財を正確に把握し、散策ルート等の計画をしていく必要がある。 ・【ブルーツーリズムの推進】アサリ等の水産資源の生育状況を確認しながら、潮干狩り等のプログラムを検討していく。 ・【氷川ツーリズム事業】ひかわツーリズムクラブとの連携により新規の体験型事業の創出を行う。 ・【やつしろツーリズム事業】定住自立圏での取組みとして八代市、芦北町と事業の必要性や実現性を協議し、地域体験型のツーリズム事業を進めたい。

- A: 目標に向かって順調に進んでいる
- B: 目標に向かってある程度進んでいる
- C: 目標に向かってあまり進んでいない
- D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---

第2次氷川町総合振興計画／施策評価シート(令和元年度)

施策コード	P1303
-------	-------

【基本構想／施策の体系】

基本構想	1 産業の未来	施策の体系	03.ツーリズム・交流を促進する独自イベントの開催
施策の方針	年間を通じたツーリズムプログラムをイベントと連携して推進します。 ・ ツーリズムプログラムと町内各種イベントとの連携を図る ・ 魅力的なイベント実施により交流促進を進める		

担当部署	主管課	地域振興課
	関係課1	
	関係課2	
	関係課3	

【施策の現状】

施策の現状、 取り組み内容	<p>【ツーリズム年間プログラムの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 30代の若手農業者1名が入会した。ツーリズムプログラムと町内各種イベントとの連携はできなかった。 <p>【各イベントの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘラブナ釣り大会については、参加者が伸び悩んでおり、いちごのPRという点でも効果は限定的である。 ・ 梨マラソン大会は、参加募集を超える申し込みがあり、1,944名の参加者で実施する予定であったが荒天により中止とした。目標は維持できている。 ・ 「道の駅」竜北ウォーキングの参加者は、県内広告・ポスター等により参加募集しているが、開催日が土曜日であったため、参加者が減少した。
------------------	--

【事業名称、指標名】

No.	事業名称	R元事業費 (決算:千円)	担当課	指標名	基準値 (H29)	H30年度 実績	R元年度 実績	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 実績	最終目標 (R9)	進捗 評価
1	ツーリズム年間プログラムの推進	0	地域振興課	50歳以下の会員の獲得(人)	14	0	1				28	C
2	立神峡里山フェスタなどのイベント開催	0	地域振興課	里山フェスタ参加者数(人)	90	未実施	未実施				200	C
3	観光及び特産品振興に係るイベントの充実	2,440	地域振興課	出店募集イベント回数(回)	3	3	3				3回維持	B
4	ヘラブナ釣り大会	638	地域振興課	大会参加者数(人)	104	83	97				200	B
5	梨マラソン大会	1,672	地域振興課	梨マラソン大会参加者数(人)	1,870	1,842	中止				1,800	B
6	「道の駅」竜北ウォーキング	488	地域振興課	ウォーキング参加者数 (人)	中止	388	290				500	B

7												
---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

【今後の方針】

【評価指標】

<p>施策の課題</p>	<p>【ツーリズム年間プログラムの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年会員の更なる獲得。各種イベントとの具体的な連携。 <p>【各イベントの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘラブナ釣り大会は、参加者数が伸び悩んでおり、参加者を増やすような取組が必要である。 ・梨マラソン大会は、目標の参加者に到達しているが、会場・駐車場が限定されているため参加者の増加が課題となっている。 ・「道の駅」竜北ウォーキングの参加者を飽きさせない工夫をするのが課題である。（例えば、新コースの設定等）
<p>今後の 施策展開</p>	<p>【ツーリズム年間プログラムの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年会員の獲得を引き続き行う。各種イベントとの連携をどのように行うか検討が必要。 <p>【各イベントの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘラブナ釣り大会は、地域住民との交流人口の増加を図るため、大会内容の見直しを図り、進めていく。 ・梨マラソン大会は、参加受入れ可能数を増やす方策を検討する。 ・「道の駅」竜北ウォーキングの参加者を増やし、地域内外の交流、町のピーアールに繋げて行く。

A: 目標に向かって順調に進んでいる
 B: 目標に向かってある程度進んでいる
 C: 目標に向かってあまり進んでいない
 D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
 総合評価の目標: 施策の方針

<p>総合 評価</p>	<p>B</p>
------------------	----------

【今後の方針】

施策の課題	・物産館の出荷者が高齢化し、出荷物が減少しているので、出荷物の確保が必要。
今後の施策展開	・出荷物が不足する際に、県内物産館と連携による商品の確保。 ・異業種連携による商品開発、販路先を含めた検討。

【評価指標】

A: 目標に向かって順調に進んでいる
B: 目標に向かってある程度進んでいる
C: 目標に向かってあまり進んでいない
D: 目標の達成には遠く、早急に見直しが必要である

※進捗評価の目標: 数値目標
総合評価の目標: 施策の方針

総合評価	B
------	---